

【600人調査】ホワイト企業なのに…？ホワハラ予備軍の衝撃

「ちゃんと指摘してほしい」若手の本音が判明。業務負荷が低い職場の5割超が“成長不安”で離職を検討



近年、過度な配慮や指導不足によって若手が成長機会を奪われる「ホワイトハラメント」が、新たな社会問題として浮上しています。

《株式会社エレメント》（本社：神奈川県川崎市、代表取締役：近藤勉）は、弁護士保険比較サイト「弁護士保険STATION (<https://bengoshi-h.info/>)」において、全国の20～69歳、男女600人を対象にホワイトハラメントに関するアンケート調査を実施しました。

調査の結果、ハラメントを恐れ指導を躊躇する上司が約7割に上る一方、若手の半数以上が「ゆるすぎる職場」での市場価値低下に絶望し、離職を検討している逆説的な実態が判明しました。

特に、言葉の認知度は低いものの実態としての「**自覚なきホワハラ予備軍**」が多数存在し、放置への不安が深刻化しています。

本リリースでは、この深刻な認識ギャップを可視化。法的リスクへの備えを含め、現代の日本企業が直面する新たな組織運営の盲点を浮き彫りにします。

■調査概要

調査方法 : インターネット調査
調査対象 : 全国の20~69歳の男女600人
(20~34歳300人、35~69歳300人)
調査日 : 2026年2月
有効回答数 : 600件
調査機関 : Freeasy

■調査結果サマリー

- ・上司の約**68.3%**がハラスメントを恐れ、**必要な指導を控えた経験あり**
- ・「ゆるい職場」の若手、約**54.8%**が成長への不安から**離職を検討**
- ・指導時の法的トラブルに備える「保険」で自信を持てると回答した上司は約**50.7%**

[関連コラムはこちら](#)

■アンケート調査結果

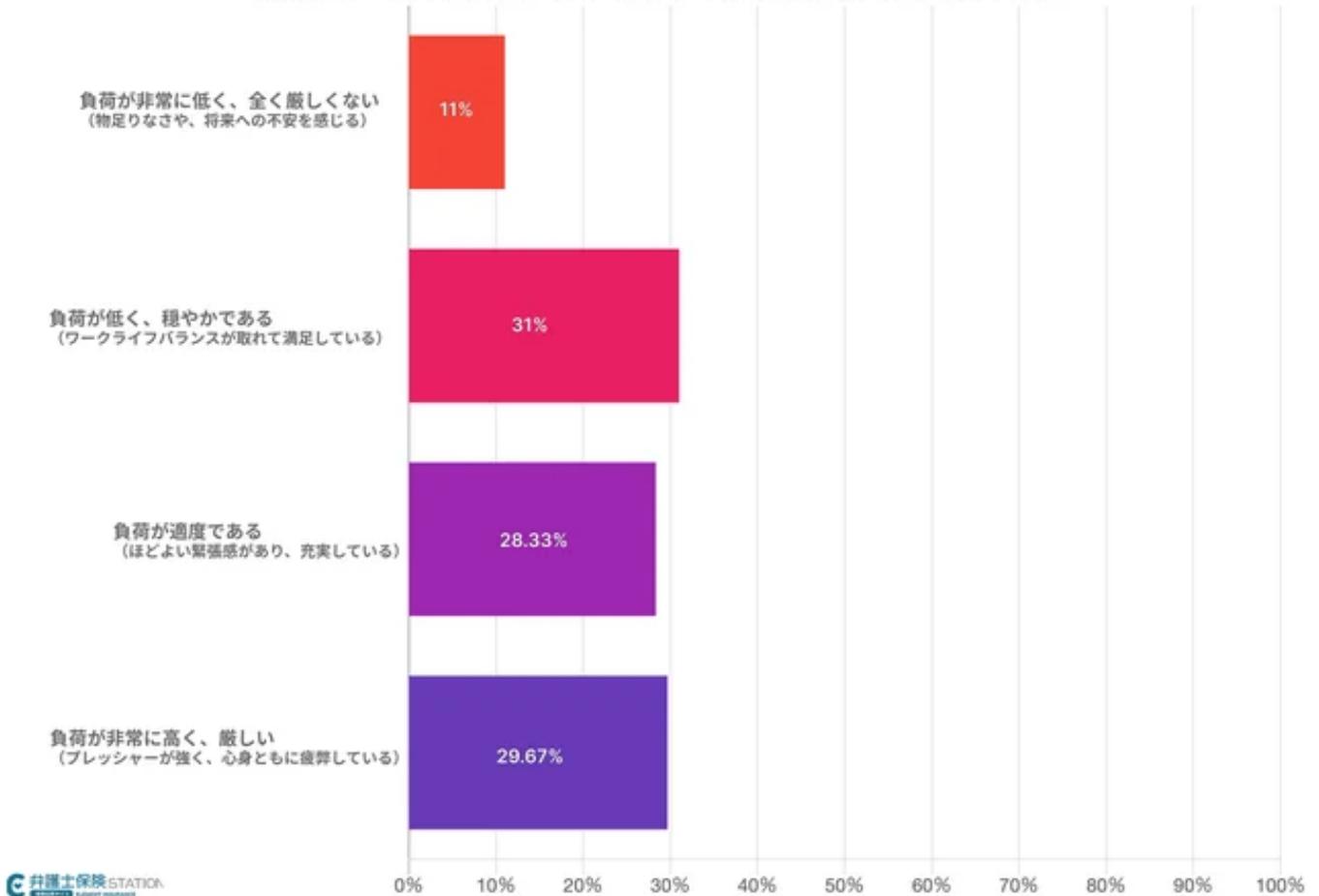
職場の負荷と指導のリアル

【部下向けアンケート結果】

若手の4割が感じる「負荷不足」の実態

n=300(弁護士候補ステーション調べ)

現在の職場の「仕事の厳しさ」や「負荷」について、あなたの感覚に最も近いものはどれですか？



現在の職場の負荷について、「非常に低い」「低い」と回答した若手層は**合計42%**に達した。

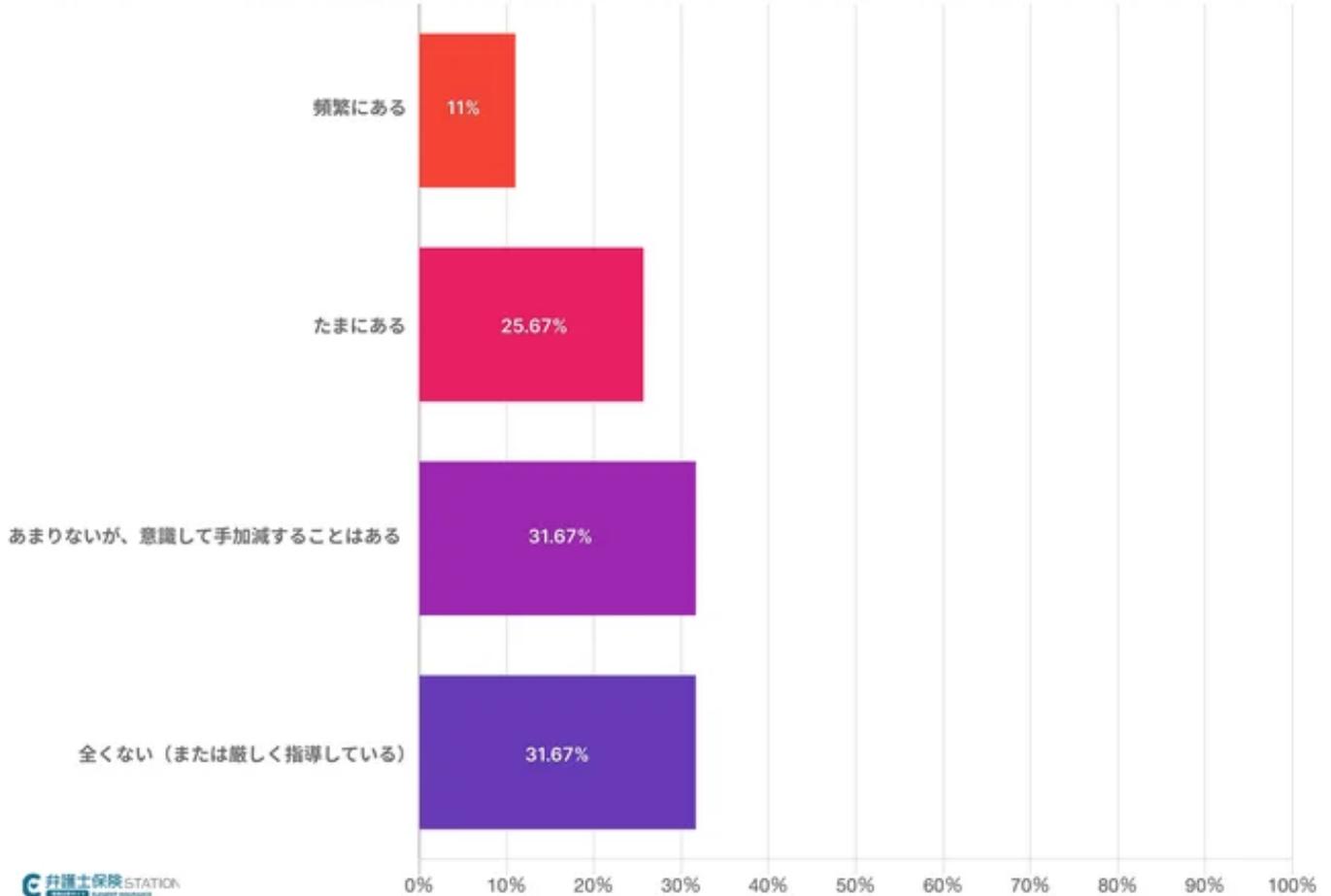
そのうち「物足りなさや将来への不安を感じる」層は11%存在し、ワークライフバランスの充実と引き換えに、仕事を通じた**手応えや成長実感**が得られていない若手の実態が浮き彫りとなった。

【上司向けアンケート結果】

管理職の約7割が「指導を躊躇」している

n=300(弁護士保険ステーション調べ)

部下や後輩に対して「本来はもっと厳しく指導すべき」と思いつつ、ハラスメント（パワハラ）と言われることを恐れて指導を控えた経験はありますか？



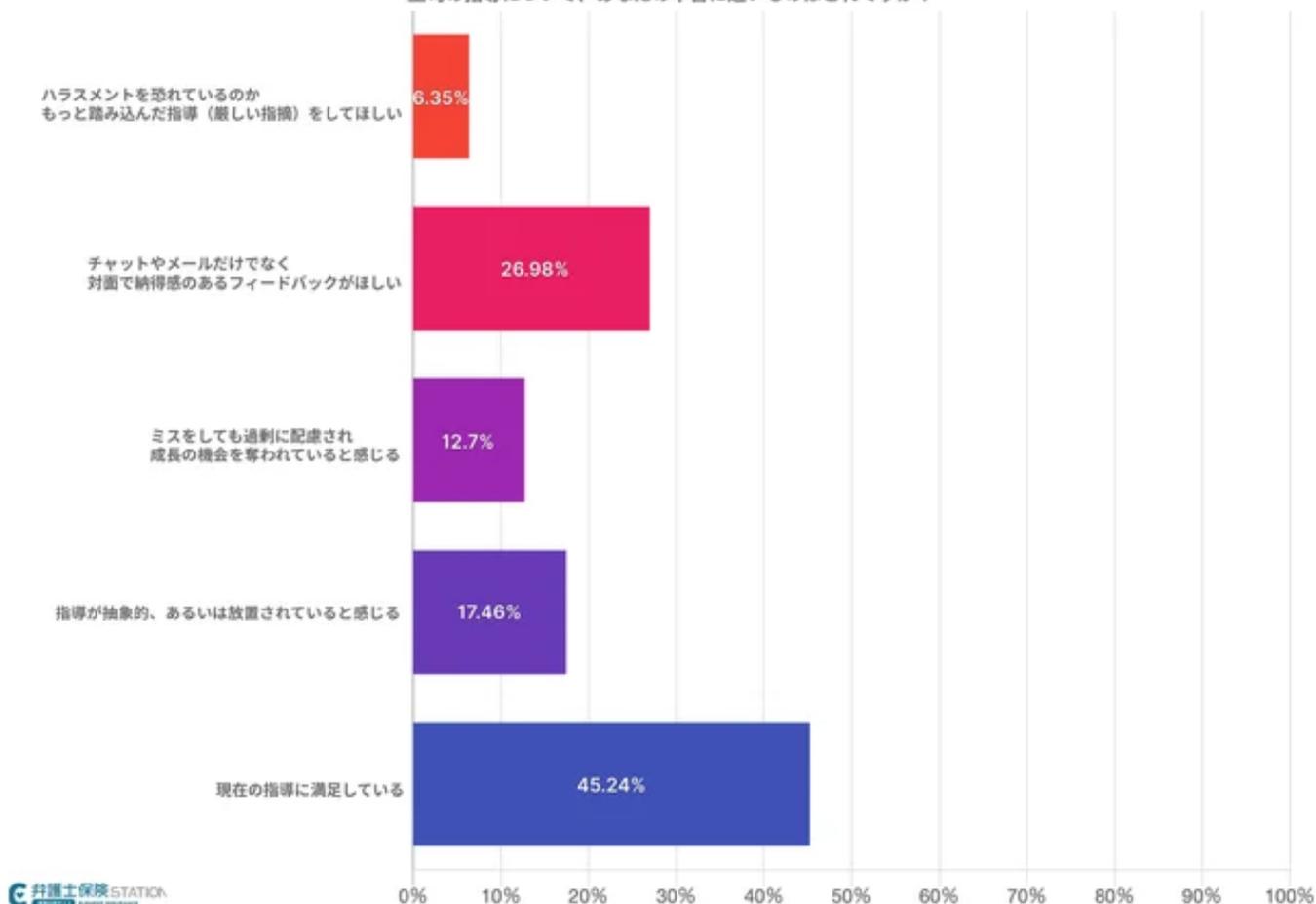
部下への指導時、ハラスメントを恐れて「指導を控えた・手加減した」経験がある管理職は約68.3%に及んだ。

「頻繁にある」が11%、「たまにある」が約25.7%など、本来必要と考える指導に対し、多くの管理職がリスク回避を優先し、育成の現場で萎縮している実態が判明した。

指導の質とコミュニケーションの悩み

【部下向けアンケート結果】

上司の指導について、あなたの本音に近いものはどれですか？



指導に不満を持つ若手の要望は「対面での納得感あるフィードバック」が約27%で最多。

「抽象的・放置されている」が約17.5%、「過剰な配慮で成長を奪われている」が12.7%と続いた。

ハラスメントを恐れて踏み込みを避ける上司の姿勢に、物足りなさや停滞感を感じる層が一定数存在する。

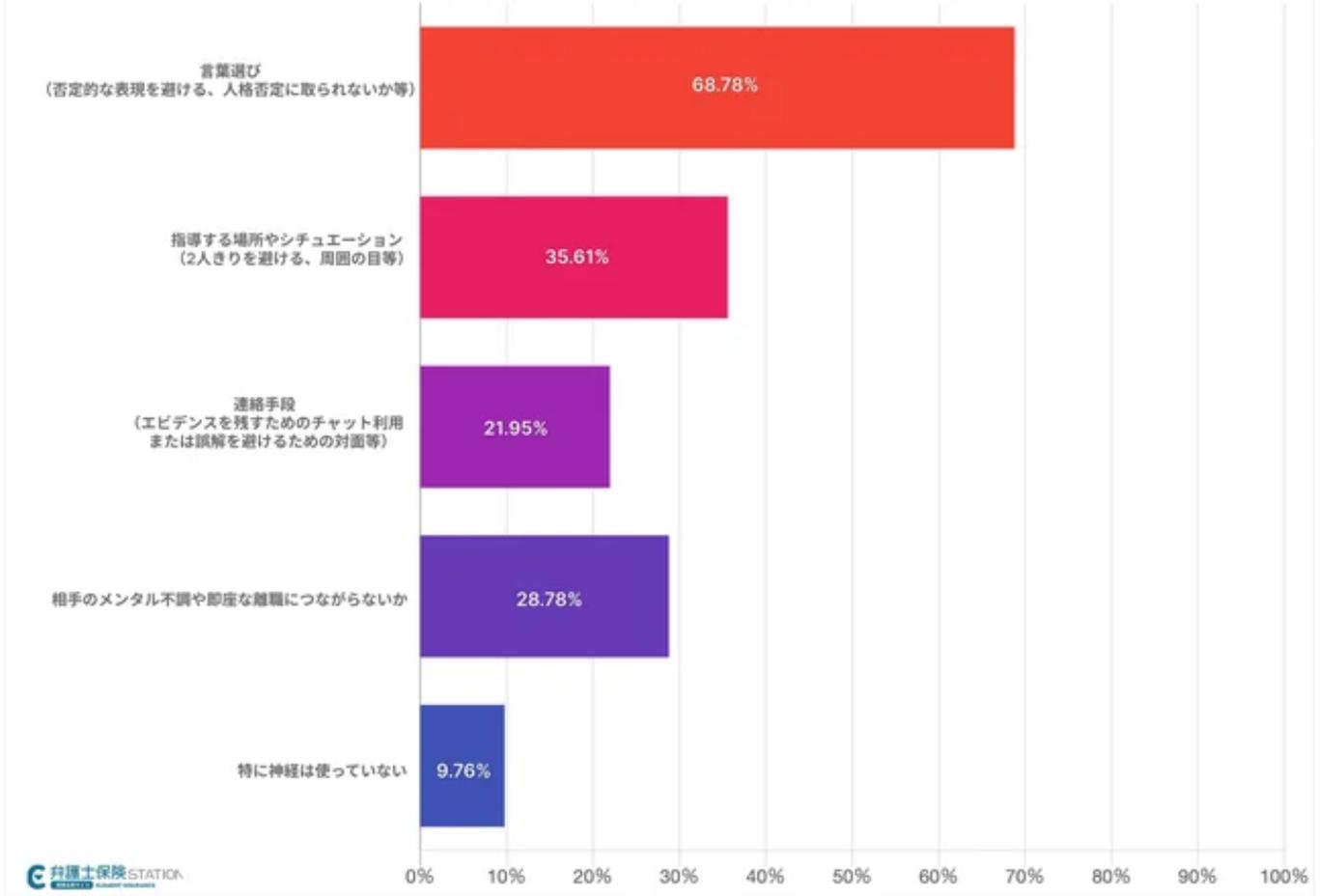
【上司向けアンケート結果】

指導時のストレスは「言葉選び」が最多

n=205(弁護士保険ステーション調べ)

ハラスメントを防止して「指導がしやすい・受け入れやすい」職場があるか

部下や後輩を指導する際、特にどのような点に神経を使っていますか？



部下指導で神経を使うポイントは「言葉選び」が約68.8%で突出。次いで「指導場所・状況」が約35.6%、「相手の離職やメンタルへの影響」が約28.8%となった。

加害者になることや部下の離脱を恐れるあまり、指導の「質」や「手法」において管理職が多大なストレスを抱えている。

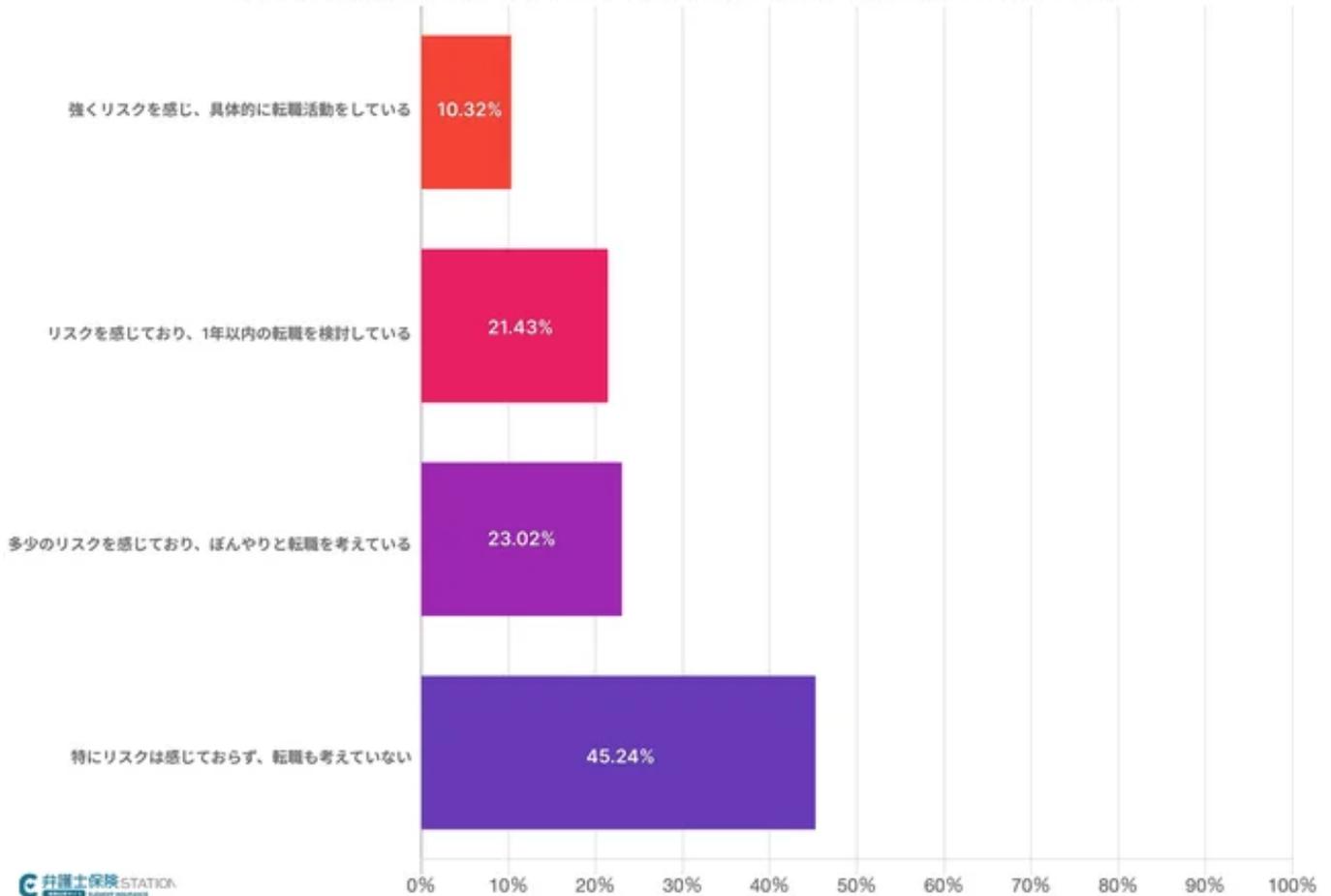
表面化するリスクと将来の不安

【部下向けアンケート結果】

「ホワイトすぎる」ことが転職の引き金に

n=126(弁護士保険ステーション調べ)

「今の職場の状況（負荷の低さ）」が原因で、自身の将来にリスクを感じ、転職を検討したことがありますか？

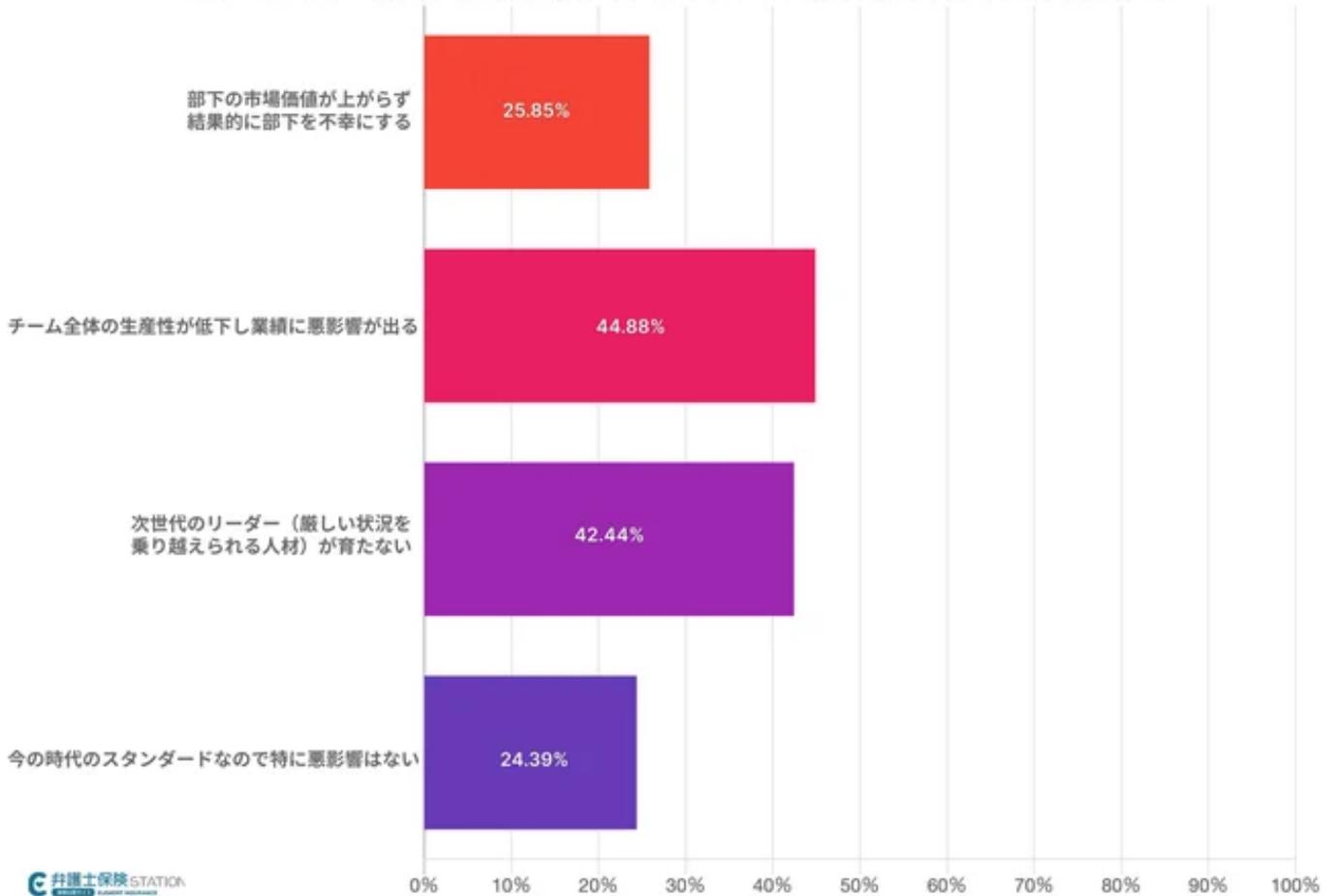


職場負荷が低い層の**54.8%**が、将来へのリスクから「**転職を検討**」している。「具体的に活動中」が約10.3%、「ぼんやり検討」が約23%。

ホワイトすぎる環境が、若手にとって「**長く留まるべきではない場所**」と化し、人材流出を招くという**逆説的なリスク**が浮き彫りになった。

【上司向けアンケート結果】

現在の「ハラスメントを恐れた、配慮優先の指導」を続けることで、部下や組織にどのような影響があると思いますか？



配慮優先の「ゆるい指導」が招く影響として、管理職の約44.9%が「チームの生産性低下」を懸念。また約42.4%が「次世代リーダーが育たない」、約25.9%が「部下の市場価値を下げ、不幸にする」と回答。

上司自身も現在の指導体制が組織や部下の**将来に悪影響**を及ぼすと自覚している。

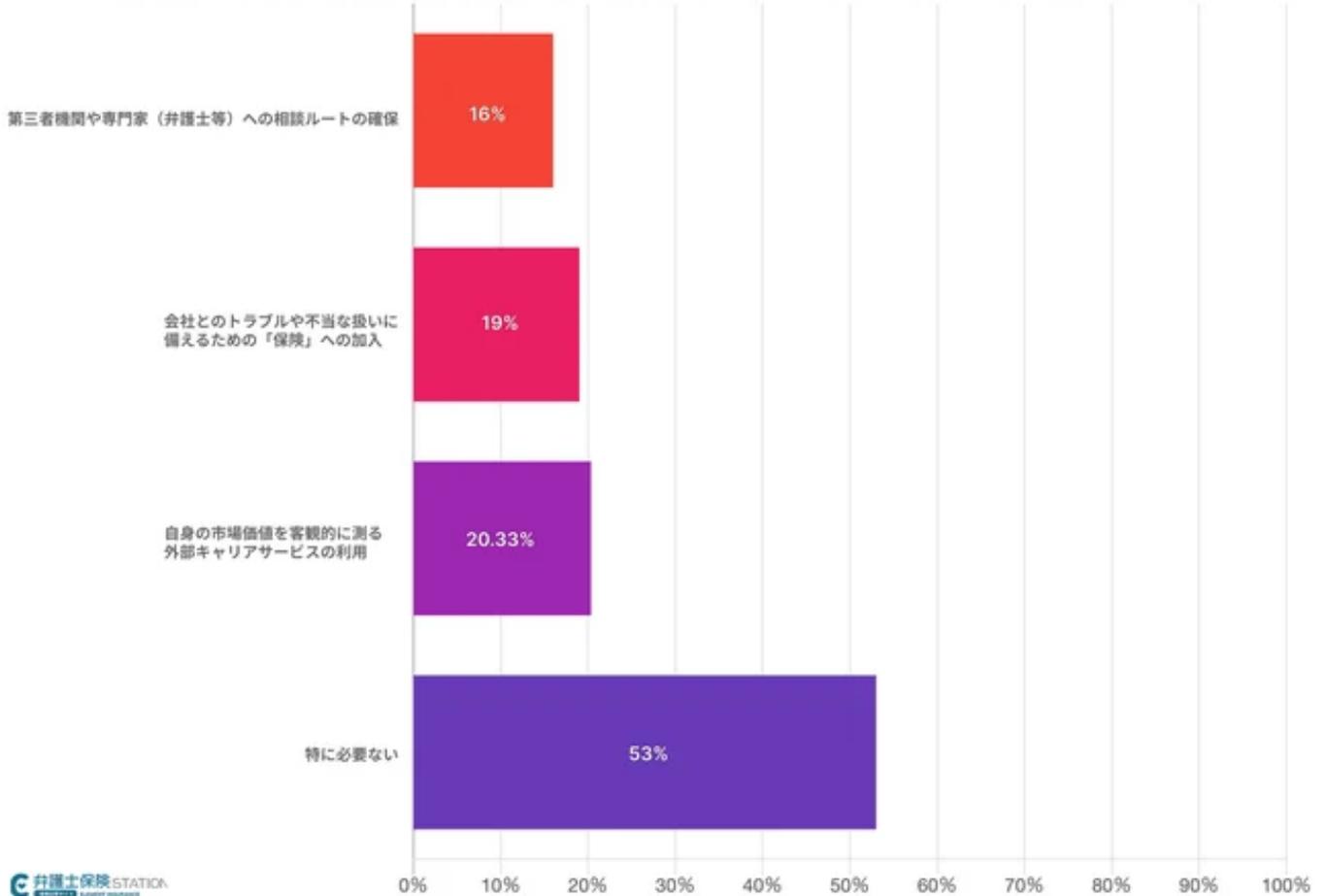
解決に向けた備えとセーフティネット

【部下向けアンケート結果】

キャリアを守るための「自衛意識」の芽生え

n=300(弁護士保険ステーション調べ)

職場で「正当な評価や適切な指導」が行われないことで不利益を被った場合自分を守るためにどのような備えが必要だと思いますか？



不適切な指導や不当評価への備えとして、約20.3%が「市場価値測定」、19%が「保険等への加入」、16%が「専門家への相談ルート確保」が必要と回答。

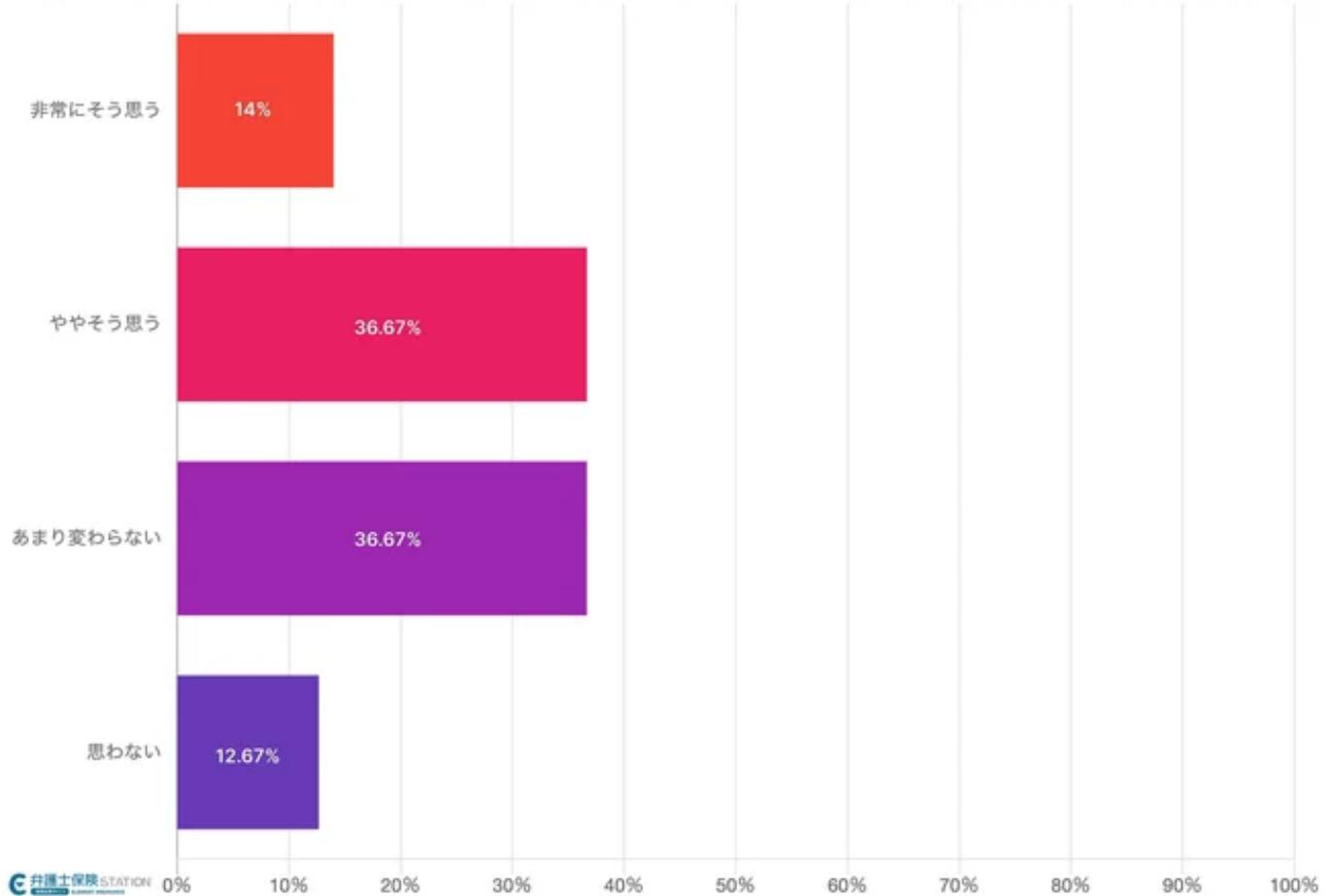
会社に依存せず、自身のキャリアや権利を客観的な手段で守ろうとする自衛意識が、若手層の間で高まりつつある。

【上司向けアンケート結果】

「法的バックアップ」が指導の自信を回復させる

n=300(弁護士保険ステーション調べ)

指導に伴う「法的トラブル（ハラスメントの訴え等）」への不安が解消される仕組み（保険などのバックアップ）があれば、より自信を持って必要な指導ができると思いますか？



法的トラブルへの不安を解消する「保険」等のバックアップがあれば、より自信を持って指導できると回答した管理職は約50.7%に達した。

法的リスクの担保が、萎縮する管理職のマネジメント機能を回復させ、健全な教育環境を取り戻すための鍵となる可能性が示唆された。

業種・地域別に見る「ホワイトハラスメント」の現状

本調査をさらに深掘りした結果、特定の業種や地域において、ホワイトハラスメントがより深刻なリスクとして顕在化していることが判明しました。

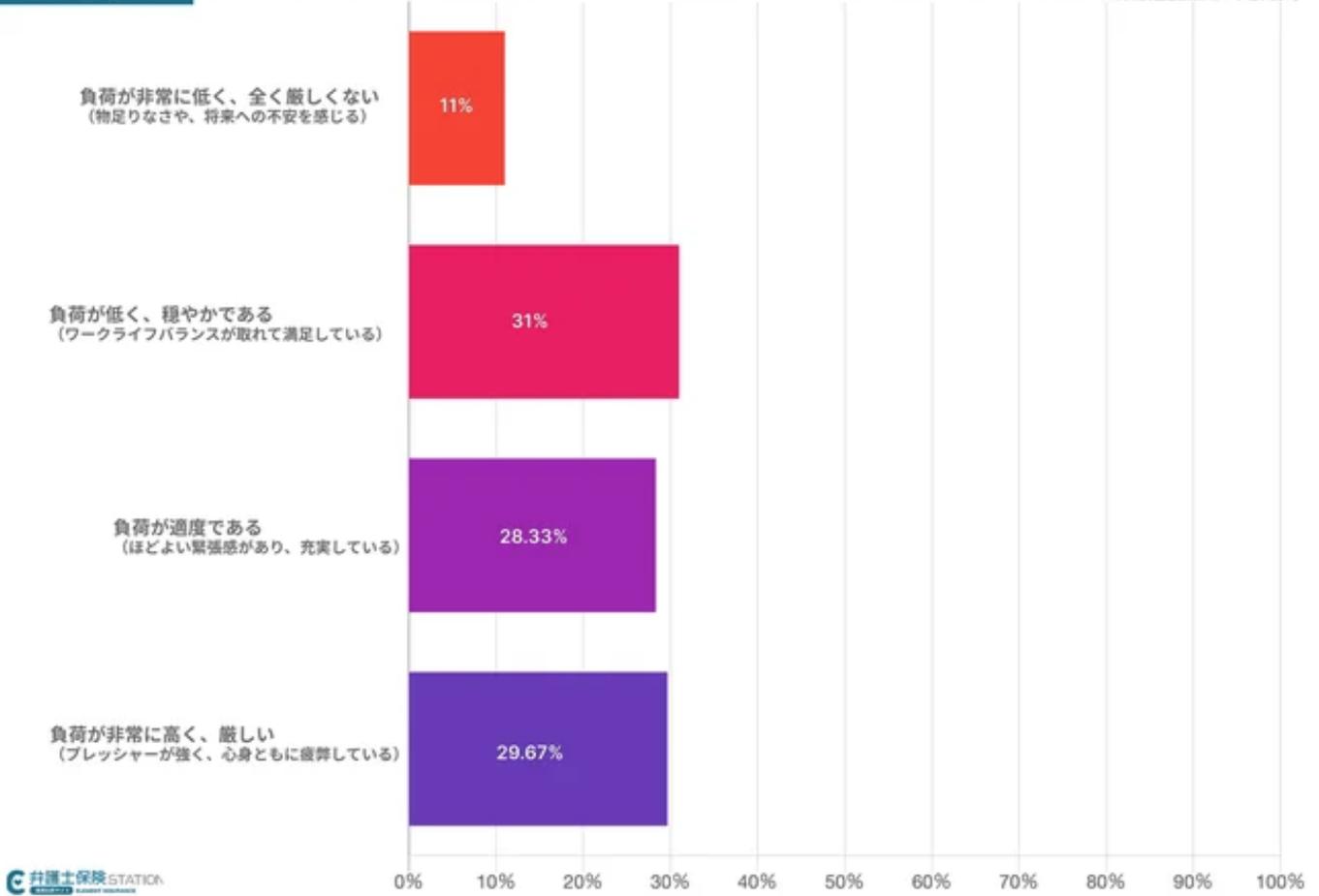
【地域別】 東京都の若手は「成長焦燥感」が突出。44%が1年以内の転職を検討

東京都に勤務する若手層では、職場の負荷を「物足りない（非常に低い）」と感じる割合が約16.4%に達しており、全国平均（11%）を大きく上回る。

全国

現在の職場の「仕事の厳しさ」や「負荷」について、あなたの感覚に最も近いものはどれですか？

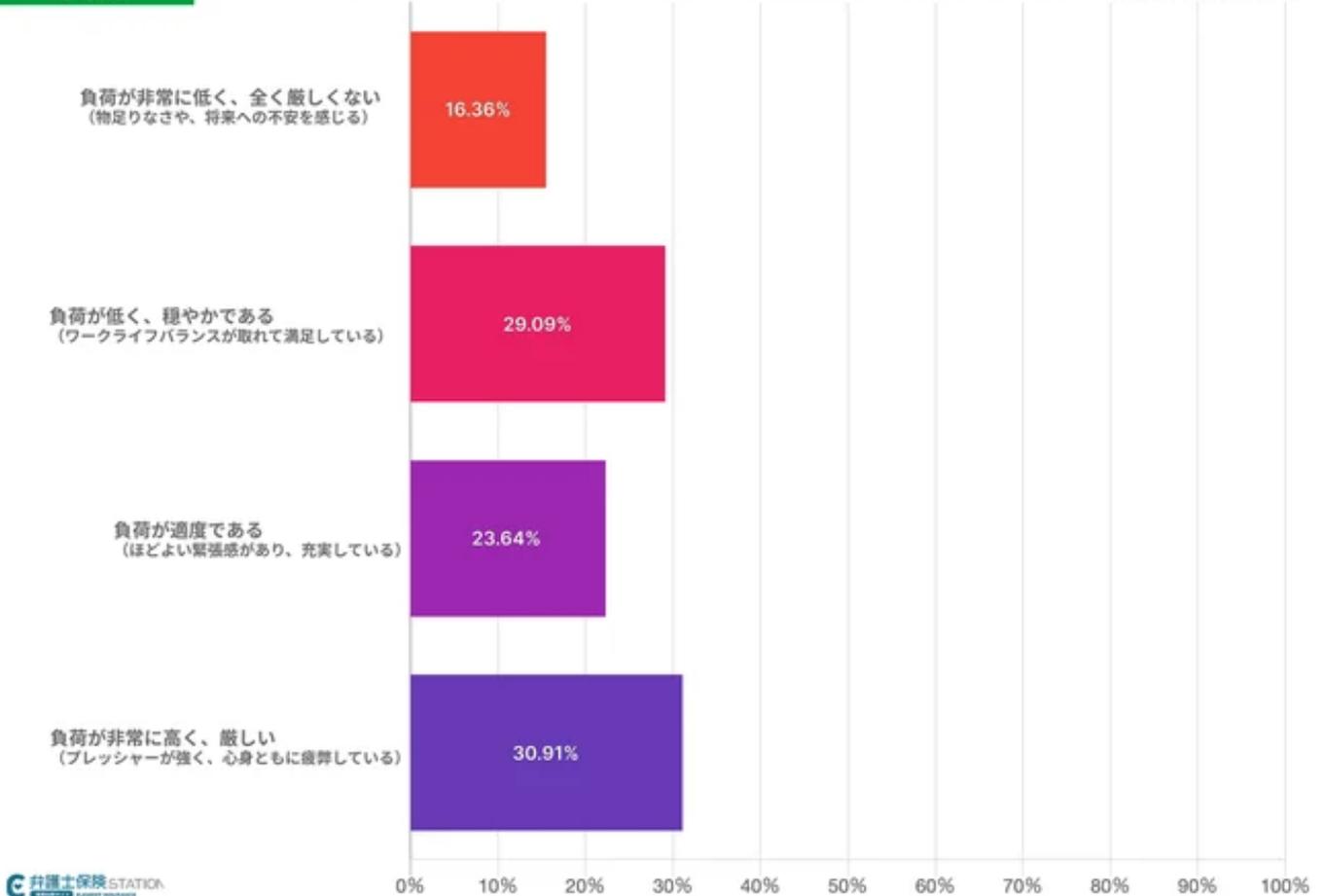
n=300(弁護士保険ステーション調べ)



東京都

現在の職場の「仕事の厳しさ」や「負荷」について、あなたの感覚に最も近いものはどれですか？

n=55(弁護士保険ステーション調べ)

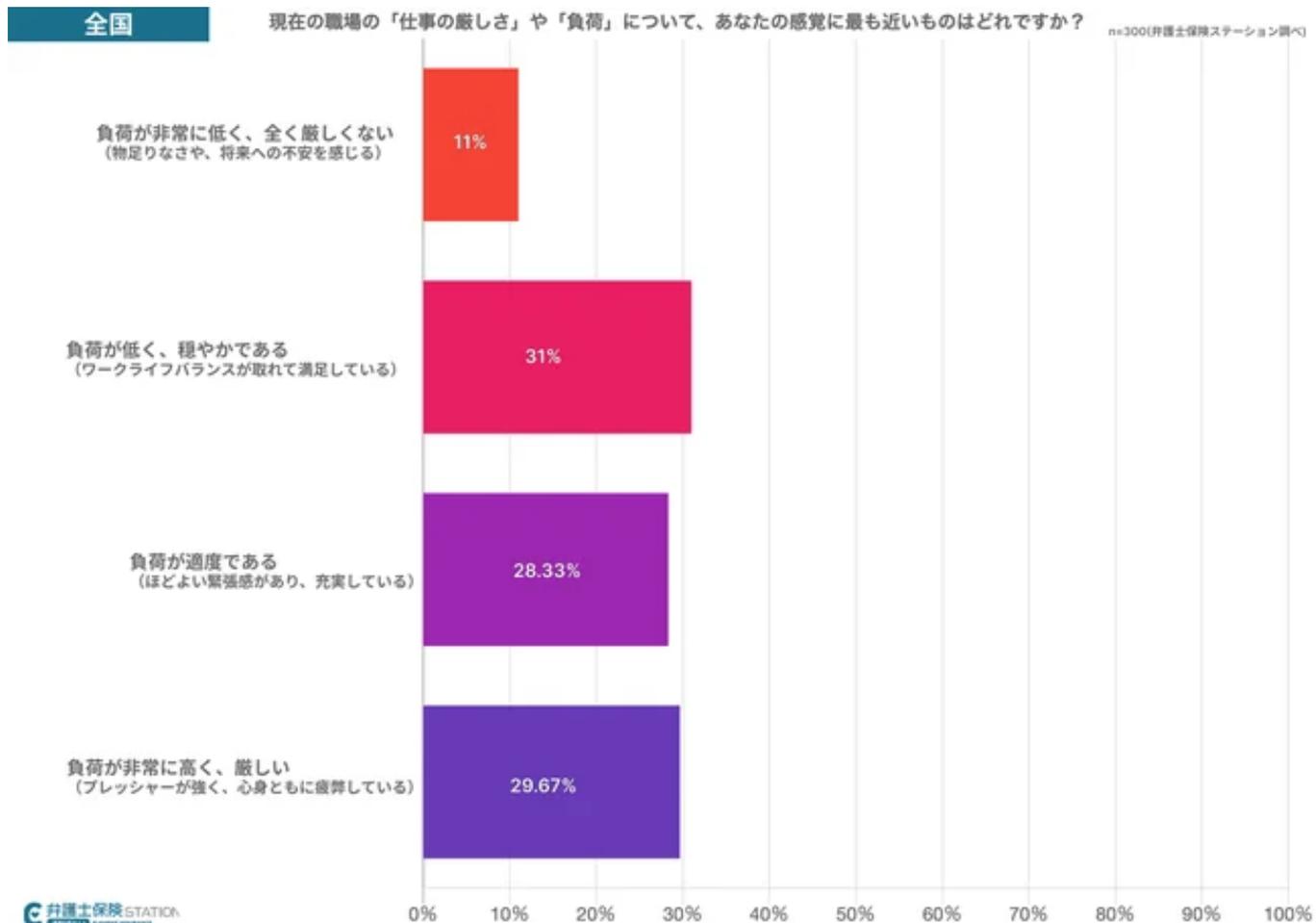


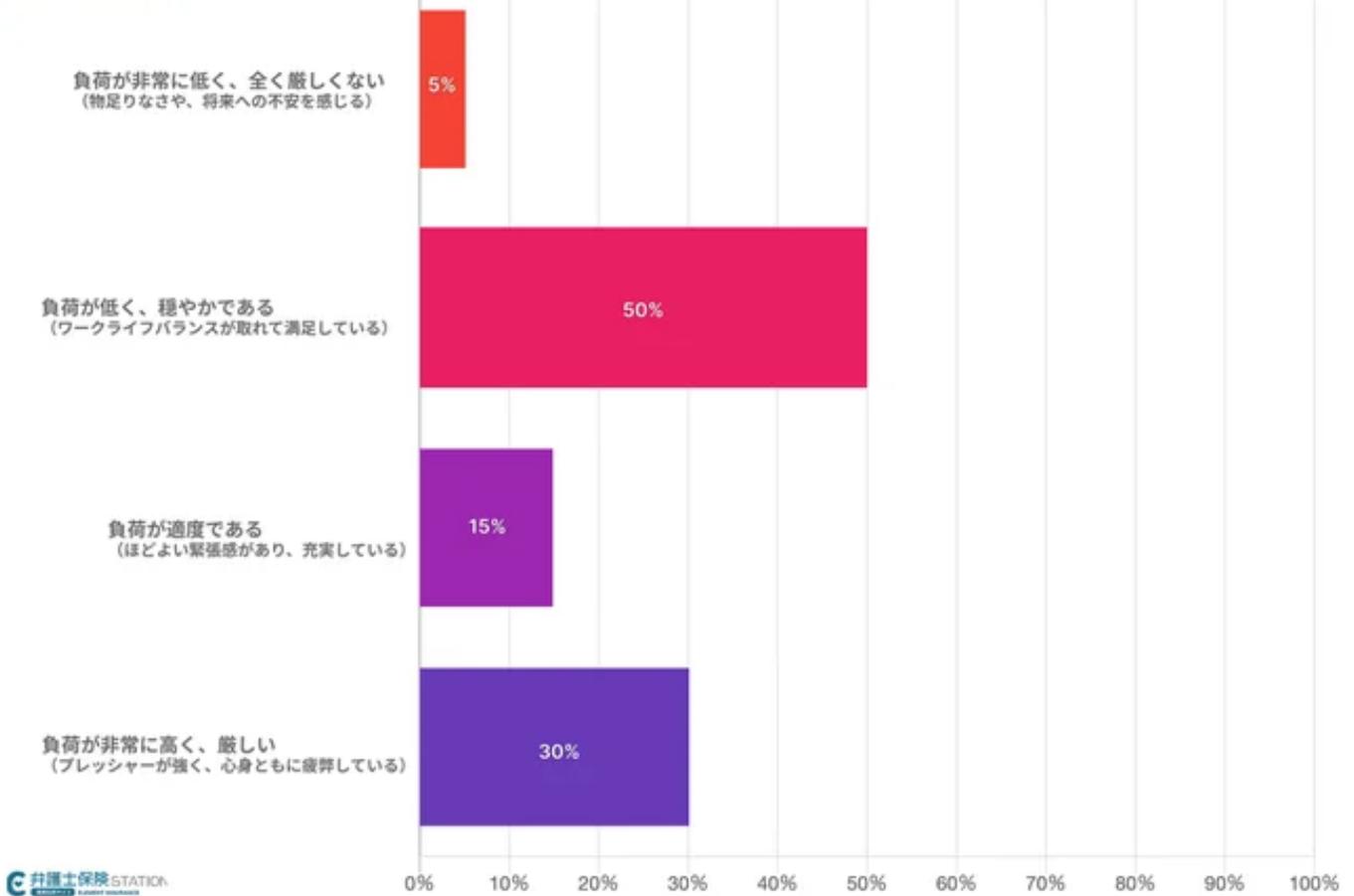
さらに、負荷不足を感じている都内の若手のうち、**44%**が「**1年以内の転職**」を検討している。

情報や機会が集中する都市部ほど、成長の停滞が離職に直結しやすい現状が浮き彫りとなった。

【業種別】金融・保険業の55%が「負荷不足」を実感。レガシー業界のジレンマ

業種別分析では、金融・証券・保険業に従事する若手の55%が、現在の職場の負荷を「低い・非常に低い」と回答した。これは全業種平均の42%を13ポイント上回る数値である。





歴史ある大手企業が多い業界ほど、コンプライアンス遵守の徹底が「過剰な配慮」を生み、若手の成長意欲との乖離を招いている実態が示唆された。



【専門家のコメント】

ハラスメント対策の進展により**指導の萎縮**が生じている実態が確認できます。

過度な配慮が成長機会の不足につながらないよう、企業は「**適切に伝える指導文化**」を整備する必要があります。

良かれと思った配慮が離職を招く「ホワイトハラスメント」。

本調査の詳細な分析や、法的リスクを抑えつつ部下の成長を守る指導のコツについては、以下のコラム記事にて詳しく解説しています。

関連コラムはこちら

■記事等での調査結果のご利用にあたって

本プレスリリースの内容を引用される際は、以下のご対応をお願いいたします。

- ・引用元が「株式会社エレメントと弁護士保険STATIONによる調査」である旨の記載
- ・弁護士保険STATION(ステーション) (<https://bengoshi-h.info/>) へのリンク設置

禁止事項：法令や公序良俗に反する目的、または当社や第三者の名誉・信用を毀損する目的での利用は固くお断りいたします。



■弁護士保険STATION

<https://bengoshi-h.info/>

弁護士保険の総合比較サイト「弁護士保険STATION」では、お客さまの安心を支える「弁護士保険」を取り扱う3社の中から比較できる機能をはじめ、弁護士保険の選び方の注意点、豆知識などの情報も更新しています。

■人気保険比較サイト

ペット保険：<https://www.pets-station.info/>

弁護士保険：<https://bengoshi-h.info/>

自動車保険：<https://car-h.info/>

自転車保険：<https://jitensha-hoken.info/>

バイク保険：<https://bike-h.info/>

妊娠保険：<https://ninshin-h.info/>

糖尿病保険：<https://tonyobyoy-h.info/>

火災保険：<https://kasai-h.info/>

■株式会社エレメント

<https://element-gr.jp/>

当社は、ITを活用した旅行関連サービスからスタートし、現在は、Web集客を生かした非対面型のデジタル保険の総合代理店事業を運営しております。また、関連会社では旅行・法人向けサービス・卓球事業など、多角的な事業も展開しております。

■会社概要

<https://element-gr.jp/>

会社名：ELEMENT GROUP 株式会社エレメント

住所：〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町10-4 モドマルシェ渋谷桜丘ビル3階

電話：03-5428-6601

当プレスリリースURL

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000398.000073883.html>

株式会社エレメントのプレスリリース一覧

https://prtimes.jp/main/html/searchr/p/company_id/73883

株式会社エレメント 広報担当：尾山 花恋

電話：080-3319-8065

メールアドレス：press@element-insurance.info